令和６年度

学校経営計画＝(教育計画・評価表)

目指す学校像	自分で考え、主体的に行動し、世界に羽ばたき、未来を創造していく人間の育成を理念とし、「自由・自主・自立」の校訓のもと、生徒一人ひとりの個性を尊重しつつ、明日の社会を担う人材への成長、育成に努める。また、生徒が「自分育て」をしながら、未来を創造する力「明日力」の育成を目指す。

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
個々に応じた丁寧な学習指導や進路指導の実践､各種行事等における一人ひとりが活躍できる場の設定やグループワークによる協働的な学びを通して教育的効果をあげることができた｡多様な課題を抱える生徒への適切かつ継続的な対応においては､個性を重視しつつも社会との関わりを深める支援が求められる。	個々の生徒に応じた学習指導・進路指導の充実	生徒一人ひとりの能力や個性に応じた学習指導を行い、学力向上を図るとともに、グループワーク等を設定し、かかわりから学ぶ場の工夫をする。また、生徒各自が卒業後の進路決定が実現できるように支援する。	B
	心の成長を重視した道徳教育の充実	道徳教育の充実をさらに図り、一人ひとりの生徒の豊かな心の育成を図る。自ら考え、自ら判断し行動できる生徒を育成する。また、協働的な学びを通して他者との関わりを深め、自分自身の価値や能力、自己評価を高める。	B
	学校並びにキャンパスにおける行事の創意工夫	魅力ある学校行事または各キャンパスにおける行事(地域や社会につながる体験学習)を企画、運営し、その行事を通して、より良い人間関係(教師と生徒、生徒同士)を深め、充実した高校生活が送れるよう支援する。	B
	地域との連携の充実	出身中学校、前籍校との連絡を密にし、情報を共有し合い、生徒一人ひとりの成長を図る。また、保護者会や面談を通して保護者との連携を図り、協力しながら生徒を支援する。さらに、学校評価を通して挙げられた保護者・地域等からの声を参考によりよい学校運営を目指し、地域へのさらなる定着を図る。	C
	多様な課題や問題を抱える生徒への支援	各生徒が抱える悩みや課題を少しでも解消し、不安なく学校生活を送ることができるように、一人ひとりに寄り添い、担任、スクールカウンセラーそして家庭や外部関係施設等との連携を図り支援する。	B

自己肯定感を高め、一人ひとりの自己実現に向かうエネルギーを膨らませる。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題（振り返り含む）
国　語	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けさせる。 ・学習を通して考える力、共感する力、想像する力、伝え合う力を養う。 ・我が国の言語文化に対する理解を深め、活用する能力を身に付けさせる。	・漢字の読み書き、語句の学習等の内容を添削課題に盛り込み、社会生活に必要な国語の知識・技能の定着を図る。分からない事項について、調べる手立てを指導する。 ・漢字検定の受検を通して、効果的な漢字学習の方法を知り活用する能力を身につける。客観的な評価に基づき自らの能力を知り、努力の成果を感じる機会を設ける。	B	B	・漢字や語句の学習については、分からないものについては調べようとする意識の定着は窺える。一方で、同音異義語を解答する等真の理解には結びついていないケースも見受けられる。漢字は表意文字であることを理解させたい。 ・漢字検定の受験率が向上し、合格率も向上している。受験者の取り組みに差があり、対策を十分にして臨むことが今後更に合格率を上げるための課題と感じる。合格者は今後、更に上級合格を目指して欲しい。 ・言語活動においても取り組みは向上しているように見受けられるが、設問の意を解していない解答も多数見受けられる。学校生活の中でのコミュニケーションを通して、言葉のキャッチボール能力を向上させたい。 ・「手紙の書き方教室」の実施により、社会生活の中での国語の学習事項との結びつきを実感させることができた。「国語＝難しく長い文章」ではなく、生活に密着したものであり、使うことで磨かれていく能力であることを実感させたい。
		・添削課題の自分の考えを文章にまとめる活動や調べ学習、俳句の創作活動等を通して「考える力」「想像する力」「伝え合う力」を育成すると共に表現する喜びを味わわせる。 ・キャンパスにおける HR や面接指導を通して、教員や生徒同士の関わりの中で「聴く力」、「考える力」を養うことで、長く難しい文章を読み、理解できる能力を磨かせる。	B		
		・様々な教材文に触れたり、地域に根ざした学習活動に参加したりすることで我が国の言語文化や地域文化を理解し、活用する能力を身に付けさせる。 ・生徒の多様な課題に寄り添い、学び続ける意欲を培う学習支援を行う。	A		
地・歴	・地理、歴史に関する基礎的知識の定着 ・社会的事象に関する興味・関心を高める。 ・資料等を活用し、社会的な見方・考え方を育成する。	・教科書の通読と添削課題・面接指導を通じて、基礎的知識の定着を図る。	A	B	・概ね平均点は目標の範囲内となった。前期の反省を踏まえ後期は、上位科目の難易度を上げた。 ・概ね達成できた。指導の工夫を検討していきたい。 ・校外学習は１キャンパス以外実施できなかった。必要な情報を共有し、各教員年１回は実施を目指したい。 ・双方向オンライン授業では教員を交えた対話はできているが、生徒同士の対話は難しかった。視聴報告書平均正答率90%以上でできた。引き続き、継続し、科目変更も検討したい。
		・個々の実態に合わせた学習指導ときめ細やかな添削指導を行う。	A		
		・効果的な資料の提示や活用方法を知り、社会的な見方・考え方を働かせて課題を追及したり解決したりすることができるよう、場の設定や支援の方法を工夫する。	B		

公　民	・理解を深めるための基本的な語句等基礎知識の獲得 ・自分という個から所属集団や社会への視点の拡大 ・実社会の問題を自分事として捉えることができる興味・関心・意欲の醸成	・レポート作成並びに面接指導を通して基礎基本の定着を図る。左記の学習に加え、生徒の力量、進捗状況に応じて教科書の通読やICT教材、あるいは動画教材等の利活用を促す。	C	B	・スタディサプリの有用性は説明するまでもないが、一般入試利用者が以前と比べて極端に少なく、かつ、一般入試対策としてスタディサプリだけが選択肢ではないため、目標として掲げた数字とは大きく乖離してしまった。ただ、学校全体で推し進めてきたスタディサプリの利活用を進める働きかけそのものは、利用した結果に関わらず有益であると考える。もう少し使用率を向上させる働きかけの方法を工夫し、既存の学習と連動させるような新たな仕組みづくりに地道に取り組む必要がある。
		・多角的に物事を吟味し、現代社会の本質を見極めることのできる視点の獲得を目的として、裁判所等の施設見学や裁判の傍聴、地域の伝統行事の見学や参加といった、地域ごとの特色を生かした体験的な活動への参加、あるいは模擬投票の体験等の主権者教育を通してシティズンシップ教育を充実させる。	B		
		・「成人」に与えられる権利と果たすべき責任について、レポート作成を通して基本的な知識を確認する。特に、独立した「家計」を担うことのできる経済の基礎知識獲得を目的とした授業等を実施する。	B		
数　学	・基礎基本の定着 ・自身の中から解答を導く感覚を養う。 ・現実世界との関連性を理解する。 ・協働的な学びを通して問題解決能力を向上させる。	・観点別評価に則した学習教材の精選をすることで、生徒それぞれのペースで学習に取り組むことのできる補助ツールの構築を進める。	A	B	・補助ツールの構築として、スタディサプリを利用した学習補助動画の選定をすることができた。 ・加えて、主体的設問を学習教材や試験に導入しており、解答率向上に向けた取り組みを前期の活動後から積極的に取り入れてきた。状況として、解答率(現実世界との関連性への理解)向上に大きく影響を持たせることはできなかったが、生徒へ意識を持たせるという面に繋げることができている。 ・また、現在、数学科の教員が不在のキャンパスにおいて、補足的な支援をできていない状況が見受けられる。専門教員が不在のキャンパスにおいても指導に大きな差が出ないよう補助ツール等の構築を進めることが次年度に求められる。
		・添削課題における家庭学習での主体的な調べ学習を促し、現実世界との関連性への理解を図る。「気づき」のきっかけをつくることから、社会との繋がりに関心を持たせる。	C		
		・生徒自身の持つ数学的な考えや意見を表現できる場を段階的に導入していくことにより、多角的な視点を持つことや個々の達成感へ繋げることのできる指導を行う。	A		

理　科	・基本的な自然現象における規則性を理解させると共に日常生活との関連付けを気付かせる。 ・ICTを取り入れた学習支援等、個別最適化を図る。	・観点別評価を取り入れた添削課題・個別学習課題の精選を行い、個々に応じた学びの充実を図る。	B	B	・新課程科目が揃ったことから、教科内で観点別評価の共通認識を図り、必要に応じて見直しを進めたい。 ・面接指導や校外学習を通し、協働的な学びに繋がるような多様な学習活動の場・教材等の充実を図っていく。
		・身近な物事・現象に関する観察、実験等を通し、探究する能力と態度を身につけさせる機会を増やす。	A		
		・協働的な学びを通し、基本的な概念や原理・法則を理解し科学的な見方や考え方の能力を養う。	B		
保　体	・自己管理能力、計画性の育成 ・仲間と協働により、運動の楽しさ、喜びを味わう。 ・現状の体力を知ることにより、生活習慣の改善、継続的な運動習慣を身に付ける。 ・グループワークからのコミュニケーション能力育成、人間性の育成	・オリエンテーションにより体育実技スクーリングへの意識づけ ・計画性をもった実技スクーリングへの出席を促す ・体力測定により、自己の身体の現状、体力を知り、基本的な生活習慣を改善するための課題を見つける	B	B	・出席率は向上したが、毎年の体力測定の実施記録を比較できるような流れが取れていない。次年度は過去の記録を上手く活用し、意欲向上にもつなげたい。 ・身体の現状、体力を知った中で、よりよい生活習慣に結び付けることを促すとともに、生活習慣の改善にもつながるような策を講じなければならないと感じる。 ・実技指導においては、細かな説明を取り入れるようにしているため、生徒の理解につながっていると感じている。 ・全体的に多少なりともコミュニケーションを図る場が設けられているが、その場がグループワークの主体的な動きに直結しないケースもある。内向的な生徒も多いため、次年度はさらに工夫をして指導に臨みたい。
		・グループワークでの協働により、互いに協力すること、個々の違いを尊重する姿勢を育てる	B		
芸　術 （書道）	・多様な場面に対応する書写の基礎能力定着 ・書道を通じた自己表現能力の向上 ・書の美しさを感じ取る鑑賞能力の育成	・各学習目標に合わせたきめ細やかな添削指導を行い、書写の基礎力向上を図る。	A	B	・今年度、芸術科教員研修を実施。研修及び芸術展の審査を行い、充実した研修となった。次年度も継続して行い、の指導能力の向上及び情報交教員換を図っていきたい。 ・実技や鑑賞の機会を設けられなかったキャンパスもあった。次年度は年１回以上設けていきたい。
		・添削課題における創作作品や毛筆課題制作を通して、自己表現能力の向上を図るとともに書くことの楽しさや意欲を育てる。	B		
		・異なる書風の古典を一度に比較する内容を添削課題に盛り込み書風の違いや書の美しさを感じ取る鑑賞力の育成を図る。	B		

外国語	・基礎、基本の定着を図る。 ・生徒の習熟度や学習段階に応じた言語コミュニケーション能力を育成する。 ・外国語を通じて、言語や文化に対する興味関心・理解を深める。 ・情報や考えを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。	・生徒一人ひとりの習熟度や実態を考慮し、個々に応じた学習指導を行い基礎、基本の定着を図る。	D	B	・ほとんどのキャンパスで校内外学習を行った。 ・外国語を学ぶ楽しさや、主体的に学習することの大切さを実感させるため、充実した学習の場を設けることが必要である。 ・基礎・基本の定着には、学習の積み重ねが必要になる。その必要性をいかに理解させ、その機会を設けながら、基礎学力の向上に繋げることが大きな課題となる。
		・校内外で外国語やその背景にある文化に触れる学習機会を設けることにより、外国語の活用に興味を持たせる。	B		
		・生徒が主体的に取り組める問題を学習課題に盛り込み、学んだ内容からさらに発展した表現力を身に付ける。	A		
家　庭	・生活に必要な知識・技術の習得に努める。 ・ 生活を工夫し創造する能力を育成する。 ・ 生活の中の問題を発見し解決に向けて動ける力、多様な見方や考え方を受け入れる力を育てる。	・成年年齢の引き下げに伴い、契約や消費者問題に関する指導を強化する。（他教科と連携しながら多角的に進める。）	B	B	・消費者教育、食育に関しては、家庭科通信に内容を盛り込んでHRでの活用をより呼びかけていく。 ・また、講師の方や参考資料を各キャンパスに紹介できるようにする。 ・レポートは、今年度の点検で、より生徒の実態に合ったものに仕上げることができた。
		・地域と連携した校外学習、家庭科だよりを通して「食育」の推進に力を入れ、生徒の健康増進に努める。	B		
		・生徒の実態に合ったレポートを作成し、充実した学習指導ときめ細かな添削指導を行う。	A		
情　報	・情報技術の基礎・基本の定着を図る。 ・問題解決に向けて情報と情報技術を活用する力を養う。 ・情報社会に主体的に参画する態度を養う。	・ICT学習支援ツールを用いて学習内容の理解を深める。また、情報技術の習得を目指した添削課題の作成を行う。	C	B	・プログラミングの指導においては実験的に双方向オンライン学習を行い課題を効果的に取り組む支援ができた。 ・後期に情報モラルテストを生徒に取り組ませたが、内容が多く、難しかったため、話し合う機会の前に説明が必要であった。改めて取り組ませやすい課題に厳選し、来年度は全体的にグループ活動までの機会を設定していく。 ・今年度は生徒指導で『闇バイト』への注意喚起があったため、ほとんどのキャンパスで情報の信頼性や信ぴょう性を考えさせる内容の講話を実施していた。教科としての情報のみならず情報活用能力の育成の機会を適切に実施できるよう来年度も働きかけていく。
		・情報モラルの理解や情報リテラシーの基礎を個別学習課題に盛り込み、普段の生活からSNS等での発信の際の注意喚起につながる活動を行い、生徒同士が協働して考える機会を持たせる。	B		
		・情報の信頼性や信ぴょう性を見極めたり確保したりする能力の育成の機会を面接指導や特別活動等に盛り込む。また、普段から生徒が適切に情報を扱い主体的にその情報を活用しようとする能力を育む活動を積極的に取り入れる。	A		

学習指導と評価および教育課程 （教育運営推進部）	・基礎・基本の習得、活用する力を育成する。 ・生徒の実態に即したICT学習支援ツールの確立 ・個別最適化を促す新たな教育課程の編成	・生徒の実態に見合った基礎・基本を精選し、確かな学力の育成を図る	B	B	・確かな学力を育成するため、今年度導入を始めた「スタディサプリ」の初期登録率が伸び悩んだ。来年度は必修科目でのレポート解説と連動し、生徒の利用率の向上を目指す。 ・観点別評価の導入が３年経過し評価基準が適正かどうかを見直す機会を来年度に進めていく。 ・また、生徒に主体的・協働的な学びが提供できるように教員研修の充実や面接指導での諸活動での導入事例の提案を進めていく。
		・生徒が能動的に学ぶことができる体制を整え、教科の枠を超えた横断的な学習活動を検討・実施し生徒一人ひとりの学びや成長を見とる評価を実施する	B		
		・体験的な活動やICTを活用した学習活動を積極的に導入し、主体的で深い学びの実践と物事を理解し活用しようとする能力を育み、協働的な活動を通して教師と生徒同士の対話を通した深い学びの実践を行う。	B		
特別活動 （特別活動部）	・望ましい集団活動を通して基本的生活習慣の確立と個性の伸長を図り、自主的、実践的な態度を育てる。 ・人間としての在り方や生き方について自覚を深め、自己を生かす能力を養う。	ホームルーム活動 ・「明日力」を育む教育活動の中で望ましい人間関係を形成し、社会的に自立しようとする自主的・実践的な態度を育成する。 ・「キャリア・パスポート」で高校生活の見通しを立て、振り返りを行うことで、基本的な生活習慣の確立を目指す。	B	B	・各キャンパスの活動データの共有の声掛けが不十分で、データの格納がすすまなかった。年間２回前期・後期で声掛けを行い格納や利用をすすめ、活動の充実を図っていきたい。 ・修学旅行は、９７名の生徒の参加があった。年間3回の生徒交流会も実施できたが、打ち合わせが計画的に行えなかった。 ・行事を今年度より早いスケジュールで先を見据えて計画・運営していきたい。 ・土浦キャンパスの校外学習にはなるが、県の芸術展鑑賞会を計画実施できた。
		学校行事 ・生徒一人ひとりが、心身の健康・仲間との協働が図れるように、校内外における様々な教育活動（生活体験発表会、校内芸術展、定時制通信制体育大会、修学旅行、文化活動等）に積極的な参加を促す。それらの活動を通して自己に自信を持ち、心身ともに豊かでたくましい生徒を育成する。 ・社会の状況を鑑みて、行事の計画・運営を行う。	B		
進路指導 （進路指導部）	・生徒一人ひとりの個性を伸長し家庭及び関係機関との連携を密にして、自らが主体的に進路選択できるようにする。 ・生徒の実態を踏まえ、継続的な指導・組織的な援助相談体制をつくり、進路実現を目指す。	・各キャンパスの進路調査に基づき、年次に応じた様々な進路行事を定期的・継続的に行い、勤労観や職業観の育成、希望進路実現に向けての指針を与え、進路に対する意識の高揚を図る。	B	B	・ほとんどのキャンパスでは、年次に応じた進路行事を定期的継続的に行い、意識が高まった。また発達段階に応じた面談、卒業予定者には面接練習やプレゼン指導など担任だけではなく他の教員や外部の方にも協力してもらいながら実施できた。 ・年次に応じた行事の計画・実施をできるだけ全員対象に行い教員全員や外部の方にも協力してもらいながら相談や指導等を継続し早期から卒業後の進路を意識した生活が送れるように支援していく。
		・履修相談や面談（二者・三者）等を通して、保護者と協力しながら、個々の生徒に応じた進路相談・支援をする。また、進学・就職それぞれの指導を教員や関係機関が連携しながら、一人ひとりに応じた指導を行う。	A		

生徒指導 （生徒指導部）	・生徒一人ひとりが善悪に対する正しい知識を持ち、自らの意思により判断・行動する力を養う。 ・様々な課題を抱える生徒一人ひとりに対して、適切かつ充実した支援を行う。	・ホームルーム活動や道徳教育、外部講師による講話等を継続的に行うことで、豊かな心の育成を図る。	C	C	・各種防止講話等を通して社会規範について正しく理解させそれに沿って日常生活で継続的な声掛けを行っていかなければならない。 ・キャンパス内で生徒情報を共有する時間を定期的に確保し、より一層複数の目で課題解決に向けて対応するということを意識していく必要がある。
		・教員間のみに止まらず、保護者やスクールカウンセラー、医療・福祉等の関係機関と連携したうえで、生徒一人ひとりの課題解決を図る。	C		
保健環境・安全 （保健環境安全部）	・心身の健康と健康保持増進に必要な自立能力の育成を図る。 ・環境衛生と安全管理の徹底に努める。	・生徒の心身の健康管理を図るために、日々の健康観察および健康診断や保健調査の結果を把握し、治療勧告・保健指導・健康相談を実施（カウンセラーに繋ぐ等）し生徒の心身の健康問題の解決のための支援を進める。	B	B	・健康診断票の提出率は88.6%、歯科健診票の提出率は79.7%であった。健康安全に配慮するための資料として健康診断結果や保健調査の結果は大切なので年度内に提出すればよいということではなく早めに提出することを促す必要がある。また、受診勧告後の受診が進んでいない。【再検査受診率】（視力：6.8%、歯科：9.2%、尿：23.3%、心臓：24.1%）履修相談等を利用し、保護者へ対面で受診についてお知らせする必要がある。 ・各キャンパスで様々な保健指導を実施している。実施率は86.4%であった。保健指導の実施があまりできていないキャンパスもみられた。今年度実施できなかったキャンパスには、個別に、外部講師や保健指導資料の紹介をしていく必要がある。 ・大半のキャンパスで安全面に向けての環境整備対応や、修繕を実施することができた。一方で、一部のキャンパスでは、オフィスの間取りの問題もあり、解消することが難しい案件もある(たこ足配線・段ボール箱等の荷物管理など)。職員間での安全面への高い意識を維持できているため、継続的に対応にあたっていく。
		・ホームルームや生徒登校時に、保健だより等を利用し保健指導を実施したり年間計画に基づく保健指導や地域と連携した防災教育を実施したりすることにより、生徒の健康の保持増進と防災意識の向上に努める。	B		
		・施設設備の定期点検を徹底し環境整備をすることや、危機管理マニュアルを定めることにより、各利用施設の避難経路や災害発生時の連絡体制および対応方法を明確にした上で、地域等と協力し、避難訓練を実施し、生徒の災害発生時における迅速な行動についての意識徹底を図り、事故防止・事故抑止に努める。	B		

キャンパス運営 （教務主任）	・家庭や地域との連携、協働を重視した特色ある教育活動の推進 ・教科および校務分掌、事務作業など教員の働き方に偏重が出ない効率を考えた業務の推進 ・生徒の多様性を鑑み、生徒たちの居場所となるとともに、一人ひとりの自己肯定感が高められるような雰囲気づくりや環境の整備に努める。	・地域の特性を活かし、家庭や地域との連携・協働を重視し、教育活動全体を通して、多様な学びや人間性の陶冶につなげる。	B	B	・キャンパスの教員は，家庭や地域との連携を図りながら，生徒一人ひとりの自己肯定感を高められるようなキャンパスの雰囲気づくりに努め，教育活動を展開している。 ・ICTツール等を用いての業務改善を進めてはいるものの，キャンパスによって負担を感じている業務にバラつきがある。より効率的に業務が進められるよう業務軽減の好例の共有など，改善に向けての取り組みを引き続き実施していく必要がある。
		・働き方改革や服務規程の変更により、教職員の業務の軽減を積極的に導入し、効率的に物事を進められるような業務の改善を図る。	B		
		・教員間の情報交換や共通理解を徹底して生徒理解を深め、生徒たちの居場所となるとともに、一人ひとりの自己肯定感を高められるような雰囲気づくりや環境の整備に努める。	C		

【評価基準】　A：十分達成できている　　B：達成できている　　C：概ね達成できている　　D：不十分である　　E：できていない